様式第２号の１－②
【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人　高山学園

１.「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	ワーキングスタディ科	夜・通信	160 時間	160 時間	
	事務・経理科	夜・通信	160 時間	160 時間	
	クラウドコンピューティング科	夜・通信	160 時間	160 時間	
	大学併修リクルート科	夜・通信	320 時間	320 時間	
	大学編入科商経コース	夜・通信	160 時間	160 時間	
	大学編入科法学コース	夜・通信	160 時間	160 時間	
クラウドコンピューティング科昨年度新設					

２.「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページで公表、授業計画（シラバス）に該当教員及び授業時数明記 https:// www.fcb.ac.jp/guide/

３. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①
【⑵-①学外者である理事の複数配置】
※設置者が学校法人又は準学校法人の場合のみ

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人　高山学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公表　https:// www.fcb.ac.jp/guide/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	福岡県議会議員	４年 ２０１９年６月１日～２０２３年６月３日	組織運営体制へのチェック
非常勤	オフィスレイ　代表	４年 ２０２０年６月６日～２０２４年６月５日	組織運営体制へのチェック
非常勤	税理士	４年 ２０２２年６月４日～２０２６年６月３日	組織運営体制へのチェック

（備考）

様式第２号の３
【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人　高山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

授業計画は、学科・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能、授業の改善につなげる機能を中心として作成し、授業内容、授業の目標、到達目標、授業計画、成績評価、他の科目との関連、実務教員の有無を記載することで、学習効果を高める狙いである。

新年度から一定期間経過後に、教務部が各講師より所定のデータ提出により取りまとめる。講義形式または実習形式等からなり、通年・前期のみ・後期のみから構成。授業目標を各教員が設定し、到達できるレベルを想定しながら、該当期間での授業計画を、原則単元ごとに表示している。成績評価方法も表示し、定期試験平均及び課題提出、授業態度も含めた 100 点満点の点数化をしている。

公表時期は、毎年６月末をめどに HP 上での公表を行うものである。

授業計画書の公表方法	https:// www.fcb.ac.jp/guide/

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

試験に関しては、学則で試験に関する規則を設け、学期ごとに定期試験を行うものである。試験では、厳格な管理監督を行い、不正行為に関する細則も設け、対処している。学習成果の評価は、試験・実習評価の成績、就学態度及び出席状況での総合的判定である。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 各学科の成績評価に関しては、100 点満点での全科目平均点評価を導入してある。学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を履修登録した科目数で割った 1 科目あたりの平均点である。学科ごとに全科目平均点により成績の順位付けを行っている。指標としては 100 点～90 点は基準を大きく超えて優秀である。89 点～80 点は基準を超えて優秀である。79 点～70 点は望ましい基準と位置付ける。69 点～60 点は履修時間を認める最低限の基準に達しているものである。60 点未満は基準を大きく下回るものである。学生に入学後、基準を学則に掲示し公表している。学科によっては、平均値が高くなる傾向があるが、今後試験内容及び試験方法を改定する。成績下位 1/4 に該当する学生に関しては、学生ごとの全科目平均点を算定後、学科ごとの下位 1/4 に該当するものを特定する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https:// www.fcb.ac.jp/guide/
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 卒業認定に関しては、次の卒業要件をすべて満たす者を認定する。修業年限以上在学した者、各年度の出席率が 80％以上の者、全必須科目について修了の認定を受けた者、校納金を完納した者、学則の学生生活に関する規則に違反していない者、学則に掲げてある各学科指定の検定資格を取得した者である。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https:// www.fcb.ac.jp/guide/

様式第２号の４－②
【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人　高山学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https:// www.fcb.ac.jp/guide/
収支計算書又は損益計算書	https:// www.fcb.ac.jp/guide/
財産目録	https:// www.fcb.ac.jp/guide/
事業報告書	https:// www.fcb.ac.jp/guide/
監事による監査報告（書）	https:// www.fcb.ac.jp/guide/

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="3">学科名</td><td colspan="2">専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">商業実務分野</td><td>商業実務専門課程</td><td colspan="3">ワーキングスタディ科</td><td colspan="2">○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1800単位時間／単位</td><td>1050単位時間/単位</td><td>530単位時間/単位</td><td>220単位時間/単位</td><td>単位時間/単位</td><td>単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">1800単位時間／単位</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人	73人	0人	4人	6人	10人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画は、学科・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能、授業の改善につなげる機能を中心として作成し、授業内容、授業の目標、到達目標、授業計画、成績評価、他の科目との関連、実務教員の有無を記載することで、学習効果を高める狙いである。 新年度から一定期間経過後に各講師より所定のデータ提出により取りまとめる。講義形式または実習形式等からなり、通年・前期のみ・後期のみから構成。授業目標を各教員が設定し、到達できるレベルを想定しながら、該当期間での授業計画を、原則単元ごとに表示している。成績評価方法も表示し、定期試験平均及び課題提出、授業態度も含めた100点満点の点数化をしている。 内部学生には、4月研修時に学生生活の手引きとして配布、外部に対しての公表時期は、毎年６月末をめどにHP上での公表を行うものである。
成績評価の基準・方法
（概要） 各学科の成績評価に関しては、100点満点での全科目平均点評価を導入してある。学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を履修登録した科目数で割った1科目あたりの平均点である。学科ごとに全科目平均点により成績の順位付けを行っている。指標としては100点～90点は基準を大きく超えて優秀である。89点～80点は

基準を超えて優秀である。79 点〜70 点は望ましい基準と位置付ける。69 点〜60 点は履修時間を認める最低限の基準に達しているものである。60 点未満は基準を大きく下回るものである。学生に入学後、基準を学則に掲示し公表している。学科によっては、平均値が高くなる傾向があるが、今後試験内容及び試験方法を改定する。成績下位 1/4 に該当する学生に関しては、学生ごとの全科目平均点を算定後、学科ごとの下位 1/4 に該当するものを特定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定に関しては、次の卒業要件をすべて満たす者を認定する。修業年限以上在学した者、各年度の出席率が 80%以上の者、全必須科目について修了の認定を受けた者、校納金を完納した者、学則の学生生活に関する規則に違反していない者、学則に掲げてある各学科指定の検定資格を取得した者である。
学修支援等
（概要） 検定資格を取得できない学生を中心に、放課後補習及び教科担当者による個別での対策授業等行った。学生生活に関する規則を遵守させるため、出席指導、生活習慣改善相談行った。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39 人 （100%）	3 人 （　7.7%）	34 人 （　87.2%）	2 人 （　5.1%）

（主な就職、業界等）
卸売小売業　33%　サービス業　48%　医療・福祉業　10%　製造・建設業　9%

（就職指導内容）
就職指導部署を設け、担任制の中で緊密な連携を保ち、個々の学生の相談に対処した。特に、学生向けに就職意識付け、就職活動サポート授業、企業エントリーサポート授業（集中）、内定獲得のための校内就職合宿等を実施した。また、常に教員間の連携を保つため、就職関係者スタッフ会議を定期的に実施した。

（主な学修成果（資格・検定等））
簿記検定　23 名　文書処理検定　14 名　電卓検定　27 名　ビジネス能力検定　29 名
ファッション販売検定　22 名　色彩活用ライフケア検定　21 名　色彩技能検定　16 名
MOS　74 名

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86 人	11 人	12.8%

（中途退学の主な理由）
病気・進路変更（他の分野に進学・就職）・成績不振

（中退防止・中退者支援のための取組）
カウンセリングルーム配置、担任及び就職指導による相談を実施した。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務分野	商業実務専門課程	事務・経理科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類 講義	演習	実習	実験	実技
			850 単位時間/単位	670 単位時間/単位	280 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
2 年	昼	1800 単位時間／単位	1800 単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	54 人	0 人	6 人	6 人	12 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
授業計画は、学科・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能、授業の改善につなげる機能を中心として作成し、授業内容、授業の目標、到達目標、授業計画、成績評価、他の科目との関連、実務教員の有無を記載することで、学習効果を高める狙いである。
新年度から一定期間経過後に各講師より所定のデータ提出により取りまとめる。講義形式または実習形式等からなり、通年・前期のみ・後期のみから構成。授業目標を各教員が設定し、到達できるレベルを想定しながら、該当期間での授業計画を、原則単元ごとに表示している。成績評価方法も表示し、定期試験平均及び課題提出、授業態度も含めた 100 点満点の点数化をしている。
内部学生には、4 月研修時に学生生活の手引きとして配布、外部に対しての公表時期は、毎年 5 月末をめどに HP 上での公表を行うものである。

成績評価の基準・方法

（概要）
各学科の成績評価に関しては、100 点満点での全科目平均点評価を導入してある。学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を履修登録した科目数で割った 1 科目あたりの平均点である。学科ごとに全科目平均点により成績の順位付けを行っている。指標としては 100 点～90 点は基準を大きく超えて優秀である。89 点～80 点は基準を超えて優秀である。79 点～70 点は望ましい基準と位置付ける。69 点～60 点は履修時間を認める最低限の基準に達しているものである。60 点未満は基準を大きく下回るものである。学生に入学後、基準を学則に掲示し公表している。学科によっては、平均値が高くなる傾向があるが、今後試験内容及び試験方法を改定する。成績下位 1/4 に該当する学生に関しては、学生ごとの全科目平均点を算定後、学科ごとの下位 1/4 に該当するものを特定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）
卒業認定に関しては、次の卒業要件をすべて満たす者を認定する。修業年限以上在学した者、各年度の出席率が 80％以上の者、全必須科目について修了の認定を受けた者、校納金を完納した者、学則の学生生活に関する規則に違反していない者、学則に掲げてある各学科指定の検定資格を取得した者である。

学修支援等
検定資格を取得できない学生を中心に、放課後補習及び教科担当者による個別での対策授業等行った。学生生活に関する規則を遵守させるため、出席指導、生活習慣改善相談行った。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 （100%）	0 人 （　　0%）	26 人 （　　100%）	0 人 （　　0%）
（主な就職、業界等） 卸売小売業　20%　サービス業　50%　医療福祉業　27%　製造・建設業　3%			
（就職指導内容） 就職指導部署を設け、担任制の中で緊密な連携を保ち、個々の学生の相談に対処した。特に、学生向けに就職意識付け、就職活動サポート授業、企業エントリーサポート授業（集中）、オンライン会社説明会サポート、内定獲得のための就職合宿等を実施した。また、常に教員間の連携を保つため、就職関係者スタッフ会議を定期的に実施した。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 税務検定　73 名　電卓検定　26 名　簿記検定　35 名　MOS　93 名　医療事務検定 16 名 マナープロトコール検定　19 名　ファイナンシャル検定　5 名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52 人	3 人	5.8%
（中途退学の主な理由） 病気・進路変更（他の分野に進学・就職）		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルーム配置、担任及び就職指導による相談を実施した。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士
商業実務分野		商業実務専門課程	クラウドコンピューティング科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
			1250 単位時間/単位	単位時間/単位	550 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
2 年	昼	1800 単位時間／単位	1800 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	61 人	0 人	4 人	4 人	8 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画は、学科・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能、授業の改善につなげる機能を中心として作成し、授業内容、授業の目標、到達目標、授業計画、成績評価、他の科目との関連、実務教員の有無を記載することで、学習効果を高める狙いである。 新年度から一定期間経過後に各講師より所定のデータ提出により取りまとめる。講義形式または実習形式等からなり、通年・前期のみ・後期のみから構成。授業目標を各教員が設定し、到達できるレベルを想定しながら、該当期間での授業計画を、原則単元ごとに表示している。成績評価方法も表示し、定期試験平均及び課題提出、授業態度も含めた 100 点満点の点数化をしている。 内部学生には、4 月研修時に学生生活の手引きとして配布、外部に対しての公表時期は、毎年 5 月末をめどに HP 上での公表を行うものである。
成績評価の基準・方法
（概要） 各学科の成績評価に関しては、100 点満点での全科目平均点評価を導入してある。学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を履修登録した科目数で割った 1 科目あたりの平均点である。学科ごとに全科目平均点により成績の順位付けを行っている。指標としては 100 点～90 点は基準を大きく超えて優秀である。89 点～80 点は基準を超えて優秀である。79 点～70 点は望ましい基準と位置付ける。69 点～60 点は履修時間を認める最低限の基準に達しているものである。60 点未満は基準を大きく下回るものである。学生に入学後、基準を学則に掲示し公表している。学科によっては、平均値が高くなる傾向があるが、今後試験内容及び試験方法を改定する。成績下位 1/4 に該当する学生に関しては、学生ごとの全科目平均点を算定後、学科ごとの下位 1/4 に該当するものを特定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定に関しては、次の卒業要件をすべて満たす者を認定する。修業年限以上在学した者、各年度の出席率が 80％以上の者、全必須科目について修了の認定を受けた者、校納金を完納した者、学則の学生生活に関する規則に違反していない者、学則に掲げてある各学科指定の検定資格を取得した者である。
学修支援等
検定資格を取得できない学生を中心に、放課後補習及び教科担当者による個別での対策授業等行った。学生生活に関する規則を遵守させるため、出席指導、生活習慣改善相談行った。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ ％）	0 人 （ ％）	0 人 （ ％）	0 人 （ ％）

（主な就職、業界等）
なし

（就職指導内容）
就職指導部署を設け、担任制の中で緊密な連携を保ち、個々の学生の相談に対処した。特に、学生向けに就職意識付け、就職活動サポート授業、企業エントリーサポート授業（集中）、オンライン会社説明会サポート、内定獲得のための就職合宿等を実施した。また、常に教員間の連携を保つため、就職関係者スタッフ会議を定期的に実施した。

（主な学修成果（資格・検定等））
IT Fundamental+ 17名 Python3エンジニア 11名 MOS 63名 ビジネス能力検定21名

（備考）（任意記載事項）
2021年度から新設学科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	11人	27.5%

（中途退学の主な理由）
病気・進路変更（他の分野に進学）

（中退防止・中退者支援のための取組）
カウンセリングルーム配置、担任による相談を実施した。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務分野	商業実務専門課程	大学併修リクルート科		○

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3576単位時間／単位	2760単位時間/単位	265単位時間/単位	551単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			3576単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人	112人	0人	6人	17人	23人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
授業計画は、学科・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能、授業の改善につなげる機能を中心として作成し、授業内容、授業の目標、到達目標、授業計画、成績評価、他の科目との関連、実務教員の有無を記載することで、学習効果を高める狙いである。
新年度から一定期間経過後に各講師より所定のデータ提出により取りまとめる。講義形式または実習形式等からなり、通年・前期のみ・後期のみから構成。授業目標を

各教員が設定し、到達できるレベルを想定しながら、該当期間での授業計画を、原則単元ごとに表示している。成績評価方法も表示し、定期試験平均及び課題提出、授業態度も含めた100点満点の点数化をしている。 　内部学生には、4月研修時に学生生活の手引きとして配布、外部に対しての公表時期は、毎年5月末をめどにHP上での公表を行うものである。
成績評価の基準・方法
（概要） 　各学科の成績評価に関しては、100点満点での全科目平均点評価を導入してある。学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を履修登録した科目数で割った1科目あたりの平均点である。学科ごとに全科目平均点により成績の順位付けを行っている。指標としては100点～90点は基準を大きく超えて優秀である。89点～80点は基準を超えて優秀である。79点～70点は望ましい基準と位置付ける。69点～60点は履修時間を認める最低限の基準に達しているものである。60点未満は基準を大きく下回るものである。学生に入学後、基準を学則に掲示し公表している。学科によっては、平均値が高くなる傾向があるが、今後試験内容及び試験方法を改定する。成績下位1/4に該当する学生に関しては、学生ごとの全科目平均点を算定後、学科ごとの下位1/4に該当するものを特定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 　卒業認定に関しては、次の卒業要件をすべて満たす者を認定する。修業年限以上在学した者、各年度の出席率が80%以上の者、全必須科目について修了の認定を受けた者、校納金を完納した者、学則の学生生活に関する規則に違反していない者、学則に掲げてある各学科指定の検定資格を取得した者である。
学修支援等
検定資格を取得できない学生を中心に、放課後補習及び教科担当者による個別での対策授業等行った。学生生活に関する規則を遵守させるため、出席指導、生活習慣改善相談行った。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32人 （100%）	3人 （　9.4%）	26人 （　81.3%）	3人 （　9.4%）

（主な就職、業界等）
卸売小売業　43%　サービス業　19%　公務員　19%　製造・建設業　19%

（就職指導内容）
（就職指導内容）
就職指導部署を設け、担任制の中で緊密な連携を保ち、個々の学生の相談に対処した。特に、学生向けに就職意識付け、就職活動サポート授業、企業エントリーサポート授業（集中）、オンライン会社説明会サポート、内定獲得のための就職合宿等を実施した。また、常に教員間の連携を保つため、就職関係者スタッフ会議を定期的に実施した。

（主な学修成果（資格・検定等））
Excel　49名　ビジネス実務法務　21名　簿記検定　39名　ビジネス能力検定　46名
MOS　20名　マナープロトコール検定　20名

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
124 人	15 人	12.1％
（中途退学の主な理由） 病気・進路変更（就職）		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルーム配置、担任及び就職指導による相談を実施した。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務分野	商業実務専門課程	大学編入科商経コース	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1884 単位時間／単位	1387 単位時間/単位	240 単位時間/単位	257 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1884 単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240 人	147 人	0 人	9 人	21 人	30 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 　授業計画は、学科・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能、授業の改善につなげる機能を中心として作成し、授業内容、授業の目標、到達目標、授業計画、成績評価、他の科目との関連、実務教員の有無を記載することで、学習効果を高める狙いである。 　新年度から一定期間経過後に各講師より所定のデータ提出により取りまとめる。講義形式または実習形式等からなり、通年・前期のみ・後期のみから構成。授業目標を各教員が設定し、到達できるレベルを想定しながら、該当期間での授業計画を、原則単元ごとに表示している。成績評価方法も表示し、定期試験平均及び課題提出、授業態度も含めた 100 点満点の点数化をしている。 　内部学生には、4 月研修時に学生生活の手引きとして配布、外部に対しての公表時期は、毎年 5 月末をめどに HP 上での公表を行うものである。
成績評価の基準・方法
（概要） 　各学科の成績評価に関しては、100 点満点での全科目平均点評価を導入してある。学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を履修登録した科目数で割った 1 科目あたりの平均点である。学科ごとに全科目平均点により成績の順位付けを行って

いる。指標としては100点～90点は基準を大きく超えて優秀である。89点～80点は基準を超えて優秀である。79点～70点は望ましい基準と位置付ける。69点～60点は履修時間を認める最低限の基準に達しているものである。60 点未満は基準を大きく下回るものである。学生に入学後、基準を学則に掲示し公表している。学科によっては、平均値が高くなる傾向があるが、今後試験内容及び試験方法を改定する。成績下位1/4に該当する学生に関しては、学生ごとの全科目平均点を算定後、学科ごとの下位1/4に該当するものを特定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定に関しては、次の卒業要件をすべて満たす者を認定する。修業年限以上在学した者、各年度の出席率が 80%以上の者、全必須科目について修了の認定を受けた者、校納金を完納した者、学則の学生生活に関する規則に違反していない者、学則に掲げてある各学科指定の検定資格を取得した者である。
学修支援等
検定資格を取得できない学生を中心に、放課後補習及び教科担当者による個別での対策授業等行った。学生生活に関する規則を遵守させるため、出席指導、生活習慣改善相談行った。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
129人 （100%）	124人 （　96.1%）	5人 （　3.9%）	0人 （　　%）

（主な就職、業界等）
卸売小売業　40%　サービス業　40%　製造・建設業　20%

（就職指導内容）
一部のみの就職希望者のため個別対応を行った。進学者は大学編入後の就職意識付け、就職活動サポート授業（大卒者用）を行った。

（主な学修成果（資格・検定等））
TOEIC　255名　MOS各種　101名　簿記検定　73名　経営学検定　68名　経済学検定18名

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
224人	8人	3.6%

（中途退学の主な理由）
病気・大学進学

（中退防止・中退者支援のための取組）
カウンセリングルーム配置、担任及び就職指導による相談を実施した。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務分野	商業実務専門課程	大学編入科法学コース	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1842 単位時間／単位	1240 単位時間/単位	285 単位時間/単位	317 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1842 単位時間/単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	49 人	0 人	3 人	10 人	13 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
授業計画は、学科・コースのカリキュラム全体に一貫性を持たせる資料としての機能、授業の改善につなげる機能を中心として作成し、授業内容、授業の目標、到達目標、授業計画、成績評価、他の科目との関連、実務教員の有無を記載することで、学習効果を高める狙いである。
新年度から一定期間経過後に各講師より所定のデータ提出により取りまとめる。講義形式または実習形式等からなり、通年・前期のみ・後期のみから構成。授業目標を各教員が設定し、到達できるレベルを想定しながら、該当期間での授業計画を、原則単元ごとに表示している。成績評価方法も表示し、定期試験平均及び課題提出、授業態度も含めた 100 点満点の点数化をしている。
内部学生には、4 月研修時に学生生活の手引きとして配布、外部に対しての公表時期は、毎年 5 月末をめどに HP 上での公表を行うものである。

成績評価の基準・方法

（概要）
各学科の成績評価に関しては、100 点満点での全科目平均点評価を導入してある。学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を履修登録した科目数で割った 1 科目あたりの平均点である。学科ごとに全科目平均点により成績の順位付けを行っている。指標としては 100 点～90 点は基準を大きく超えて優秀である。89 点～80 点は基準を超えて優秀である。79 点～70 点は望ましい基準と位置付ける。69 点～60 点は履修時間を認める最低限の基準に達しているものである。60 点未満は基準を大きく下回るものである。学生に入学後、基準を学則に掲示し公表している。学科によっては、平均値が高くなる傾向があるが、今後試験内容及び試験方法を改定する。成績下位 1/4 に該当する学生に関しては、学生ごとの全科目平均点を算定後、学科ごとの下位 1/4 に該当するものを特定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）
卒業認定に関しては、次の卒業要件をすべて満たす者を認定する。修業年限以上在学した者、各年度の出席率が 80%以上の者、全必須科目について修了の認定を受けた者、校納金を完納した者、学則の学生生活に関する規則に違反していない者、学則

に掲げてある各学科指定の検定資格を取得した者である。
学修支援等
検定資格を取得できない学生を中心に、放課後補習及び教科担当者による個別での対策授業等行った。学生生活に関する規則を遵守させるため、出席指導、生活習慣改善相談行った。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 (100%)	24 人 （　　96.0%）	1 人 （　　4.0%）	0 人 （　　%）
（主な就職、業界等） なし			
（就職指導内容） 一部のみの就職希望者のため個別対応を行った。進学者は大学編入後の就職意識付け、就職活動サポート授業（大卒者用）を行った。			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOEIC　57 名　MOS 各種 33 名　ビジネス実務法務検定　19 名　法学検定　22 名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55 人	8 人	14.5%
（中途退学の主な理由） 病気・大学進学		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセリングルーム配置、担任及び就職指導による相談を実施した。		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 （年間）	その他	備考（任意記載事項）
ワーキングスタディ科	50,000 円	420,000 円	270,000 円	
事務・経理科	50,000 円	480,000 円	320,000 円	

クラウドコンピューティング科	50,000円	480,000円	320,000円	
大学併修リクルート科	50,000円	460,000円	240,000円	
大学編入科	50,000円	520,000円	260,000円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https:// www.fcb.ac.jp/guide/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校の教育理念、計画に沿った教育活動及び学習成果、学生支援の取り組みの達成状況、教育環境への取り組み及び財務、法令の遵守が適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図る。 自己評価の結果を受け、客観性・透明性を高めるために、高校関係者、関連業界関係者、卒業生、学校経営関係者など、学校と密接に関係する者の理解促進と継続した連携協力体制の確保を行い、学校運営等の改善を図るため、学校関係者評価委員会による体制を組織する。評価委員の定数は４名である。 学校関係者評価委員会から改善・助言意見について、学校関係者評価委員会開催後、2か月以内に校長代行が中心となり重点項目、評価項目ごとに整理し、教育活動等への具体的な活用について、方針、方策を策定して明確にする。次期重点目標設定、評価の実施に反映する。自己点検・自己評価及び学校関係者評価委員会を年数回行い、学校HPに公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ケアリング　代表取締役社長	2年 2021年10月1日～2023年9月30日	企業等委員
学校法人つくば開成学園　校長	2年 2021年10月1日～2023年9月30日	学術委員
会計事務所　代表税理士	2年 2021年10月1日～2023年9月30日	企業等委員（卒業生）
行政書士事務所　代表行政書士	2年 2021年10月1日～2023年9月30日	企業等委員（卒業生）
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https:// www.fcb.ac.jp/guide/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https:// www.fcb.ac.jp/guide/

（別紙）

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が 1 人以上 10 人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が 0 人の場合には、「0 人」と記載すること。

学校名	専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人　高山学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		１１９人	１１１人	１２１人
内訳	第Ⅰ区分	７２人	６３人	
	第Ⅱ区分	２５人	３４人	
	第Ⅲ区分	２２人	１４人	
家計急変による支援対象者（年間）				０人
合計（年間）				１２１人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	０人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	０人	０人	０人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	０人	０人	０人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	０人	０人	０人
「警告」の区分に連続して該当	―人	０人	１１人
計	―人	０人	１１人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	０人	前半期	０人	後半期	０人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	１１人
３月以上の停学	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	０人
訓告	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	０人	０人	０人
ＧＰＡ等が下位４分の１	１人	１７人	１１人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	０人	０人	０人
計	１人	１７人	１１人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考　この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とする。